

## スクールミーティング 1 日目

日 時：平成 29 年 1 月 18 日（水） 午前 9 時 30 分～午前 11 時  
会 場：王寺町やわらぎ会館 研修室

### スクールミーティング 1 日目の質疑応答概要

#### <1 人目>

- 幼稚園・小中学校にて説明会を開催しないのか。
- 義務教育学校設置検討懇話会の中に小学校関連がないのは何故か。
- 先生の数に関して、全く情報提供が無い。
- 王寺中学校の運動場は現在でも狭いが、義務教育学校となっては、十分な面積が確保できないのではないのか。
- 最初から義務教育学校ありきで話を進めているのではないのか。
- 現在の王寺中学校運動場に新校舎を建てるとのことであるが、その間の学習環境は保障されるのか。
- 富雄第 3 小中学校をモデルにしているとのことであるが、敷地面積が富雄第 3 小中学校に比べかなり狭い。児童生徒の数も王寺の方が多いため、学習環境が悪くなるのではないのか。
- もっと時間をかけて、義務教育学校について考えてもらいたい。

#### <教育委員会 回答>

- 王寺町の教育環境を良くするために検討した結果であり、義務教育学校ありきでは進めていない。
- 小中一貫教育は 10 数年前から全国的に取り組まれている。但し小中別の学校では限界があり、学校現場から法制化の要望の声が上がり、義務教育学校という制度が法律化された。
- 義務教育 9 年間を一体と捉え、子どもの成長に則した教育を行うことが、小中一貫教育の本質である。
- 教員の数は、少人数加配やスクールカウンセラーを配備することにより充実が図れる。
- 富雄第 3 小中学校をモデルにしているとのことであるが、そのような説明はしていない。
- 義務教育学校になっても、教職員の数については教員定数により定められているため、変化は生じない。
- 王寺中学校南側の用地買収や、北側傾斜地を整地することにより、学校用地を広げ、

学習環境を確保していく。

- マンモス校というのは1学年当たりの学級数を指す。以前奈良市では、1学年当たり14学級もあったことがある。1学年3～4学級が丁度良い環境である。

<2人目>

- 義務教育学校の建設時期が決まっていれば、教えてもらいたい。
- 工事期間中、在校生は何处で授業をするのか。

<教育委員会 回答>

- 北の義務教育学校は、早くて平成33年度開校を目指している。
- 南の義務教育学校は、王寺南小学校・王寺南中学校が候補地であるが、施設一体型の整備が可能か用地要件等を調査の上、決定する。開校時期は未定であるが、できるだけ早期に整備したい。
- 北の義務教育学校の工事期間は、平成31年度と32年度を想定している。
- 工事期間中、運動場に新校舎を建設するため、授業は現校舎のまま、但し体育の授業は健民グラウンドを想定している。

<3人目>

- 小学校と中学校では授業時間やプールの深さなどの違いがある。こういったことを保護者に対し、しっかり説明してもらいたい。

<教育委員会 回答>

- プールだけではなく、体育館や特別教室も小学校と中学校で分けて使用する必要がある。施設内容は、それぞれに対応する形で計画が進んだ段階で説明会を予定している。

<4人目>

- 6-3制から4-3-2制に変わるとのことであるが、何がどのように変わるのか。
- 運動会や文化祭は、9学年全体で行うのか。

<教育委員会 回答>

- 4-3-2制の説明は子どもの成長に合わせた区切りの例であり、実際は9年間の一貫教育である。
- 学校行事を合同で行うか別に行うかについては、教員の意見も交えて来年度以降検討を行う。

<5 人目>

○義務教育学校が開校することにより、今まで通っていた学校から転校となる。実際に通学するのは子どもなので、子どもに対する十分な説明をしてもらいたい。

<教育委員会 回答>

○整備の目標が決まり次第、小学生が中学校に、また中学生が小学校に赴く等、交流とともに慣れ親しむ機会を設ける。

<6 人目>

○義務教育学校については賛成であるが、設立に向け急いでいるように感じる。

○質問に対しても検討中という答えもあることから、もっと時間をかけ、場所や教員の問題等の議論を尽くした上で、義務教育学校を設置してもらいたい。

○既存施設の改修については、一部のトイレや一部の教室だけ空調を整えることはできないのか。

<教育委員会 回答>

○施設の老朽化が進んでおり、1つのフロアのトイレを改修するにも約2,000万円の費用がかかる。この改修を行っても、施設自体があと何年耐用できるのかを考慮した場合、投資効果が得られない。

○空調設備の設置についても、電気容量や配線等の問題が生じるため、大規模な改修が必要となる。

○このようなことから、新たな校舎を建築し、設備面を時代に応じて充実させる方が良いと考えている。

<7 人目>

○義務教育学校を設置するに当たり、子どもの成長に対するメリットは何か。

<校長 回答>

○現状、王寺の児童・生徒は良い状況で成長している。また中1ギャップも顕著に現れていない。

○しかし今後を見据えた場合、6-3制よりも9年間を通して子どもを見守った方が良いと考えている。

○その上で、子どもの成長に対するメリットを生み出すためには、我々教員が意欲を持って取り組んでいかなければならないと考えている。

## スクールミーティング 2 日目

日 時：平成 29 年 1 月 20 日（金） 午後 7 時 30 分～午後 9 時 20 分  
会 場：王寺町地域交流センター リーベルホール

### スクールミーティング 2 日目の質疑応答概要

#### <1 人目>

○義務教育学校が開校することにより、今まで通っていた学校から転校となる。子どもの負担は考えているのか。

#### <教育委員会 回答>

○児童生徒の交流の機会を増やしたり、スクールカウンセラーによる心のケア、アンケート調査などにより、きめ細かなフォローを行っていく。

#### <2 人目>

○全国的に見て分離型が多いのに、何故王寺町では一体型で進めるのか。

#### <教育委員会 回答>

○分離型のデメリットとして、「教職員の負担感・多忙感が解消できない」「小中教職員の会議や研修会が思うように開けない」が挙げられている。  
○このようなことから、「効率的・効果的な一貫教育の確保のためには施設一体型が良い」とされているため、王寺町においても施設一体型を採用したい。

#### <3 人目>

○義務教育学校の設置は、施設の維持管理費削減のための統廃合にしか思えない。  
○統廃合により、1 クラス当たりの子どもの人数が増えるのもデメリットである。

#### <教育委員会 回答>

○今の時代にあった教室やトイレ環境、空調設備や ICT 設備等、学習環境を良くするために多額の投資を行い、義務教育学校整備を進めるものである。  
○1 クラス当たりの子どもの人数は、1 年生が 35 人、2 年生以降は 40 人と定められている。よって義務教育学校になったからといって、1 クラス当たりの人数が増えることは無い。

<4 人目>

- 王寺小学校は伝統があり、出身校が無くなるのは寂しく感じている。
- 廃校利用等、今後の校舎の利用方針を教えてください。

<教育委員会 回答>

- 学校が無くなっても、伝統は将来に継承していく必要がある。
- 旧校歌を飾ることや、モニュメントを作成する等により継承するのも方法である。
- 廃校利用については、他団体では社会福祉施設や社会体育施設への転用もあるが、今後の行政需要を見据え検討していきたい。

<5 人目>

- 運動場の利用に関して、体格の違う小学生と中学生の同時利用は危険を伴わないか。
- 通学に本町1丁目交差点を通らなければならない。立哨等による対応が説明されたが、例えば遅刻した場合や通学以外に学校に行く場合の安全はどうなるのか。
- 義務教育学校設立までの行政手続きは、どのようなものか。

<教育委員会 回答>

- 施設利用計画により決定するが、用地買収により、運動場はメイングラウンドとサブグラウンドに分けた形で検討している。
- 本町1丁目交差点に関して、例えば舟戸や王寺1丁目の方は、葛下川の親水遊歩道から鎌窪橋を經由して王寺中学校の場所に行くことができる。このように通学路に関しては検討を重ね、どうしても不具合が払拭できない場合はハード整備も検討する。
- 行政手続きの今後の予定は、23日までパブリックコメントを実施し、皆様のご意見を反映した基本方針を作成。その後、総合教育会議や議会の協議を経た後、運動場や校舎利用を具体的に示す基本計画策定の予算を3月の定例議会に計上したい。

<6 人目>

- 小規模の学校が統合され小中一貫教育を行うことは意義があると思うが、王寺町の場合は、教員の人件費や、施設の維持管理費削減のための統廃合にしか思えない。

<教育委員会 回答>

- 文部科学省の基準に応じ、新たな学校校舎・体育館として建築するもので、建築にはかなりの費用を要する。このことから経費削減ではなく、子ども達へより良い学習環境の提供を図る教育費の拡充である。
- 教員の人件費は奈良県の負担であるため、町にとって経費削減に繋がらない。

<7 人目>

- 義務教育学校は人口が少ない過疎地域で効果があるが、王寺町は過疎という状況ではない。
- 2校の義務教育学校に統合した場合、1学年当たりが文部科学省の基準を越える。
- パブリックコメントの期限が、スクールミーティング終了後1日しかない。
- 行政側が急いでいるようにしか感じない。
- もう少し小さい規模で意見を言う場所を設けてほしい。

<教育委員会 回答>

- 義務教育学校は過疎地域でも開校しているが、大阪府守口市や堺市等の都市部でも開校されている。
- 王寺町は面積が7平方キロメートルの小さな町で、元々は小中学校が1校ずつであった。全ての小中学校を1校の義務教育学校にするといった意見もあったが、文部科学省の基準を考慮し、2校に再編するものである。
- パブリックコメントのみではなく、現在開催しているスクールミーティングのアンケートにご意見をいただければ、参考にさせていただく。
- スクールミーティングを各学校で開催して欲しい旨の意見もあったが、会場の規模・空調設備などを考慮し、このような形で開催した。

<8 人目>

- 小中一貫教育は良いと思うが、急ぎすぎている印象があり、教員がついていけるかが心配である。
- 教員の負担が増加し、最終的には子ども達にシワ寄せが行くのではないかと。

<教育委員会 回答>

- 開校に向けたプロジェクトチームを編成し、その中で現場教員の意見を聞き、研修を積み重ねていく。
- 教員の負担感・多忙感は現在もあるが、ICT環境の整備により授業の準備作業や資料作りを軽減し、子ども達に向き合う時間を確保していきたい。

<9 人目>

- 自然災害が起こった場合の避難所として、北小学校がなくなるのは不安である。
- 中学生の悪い部分が、小学生に悪影響を与えないか心配である。

<教育委員会 回答>

- 新たな施設整備により避難所の収容人員は確保できる。また廃校利用についても、

今後検討していく。

- 中学生が小学生と日頃から接することにより、思いやりや手本になろうとする心が生まれると考えている。また小学生から見ると上級生に憧れの感情を持つ等、より良い縦の関係がメリットと考えている。

## スクールミーティング 3 日目

日 時：平成 29 年 1 月 22 日（日） 午後 2 時～午後 3 時 15 分  
会 場：王寺町文化福祉センター 大ホール

### スクールミーティング 3 日目の質疑応答概要

#### <1 人目>

○具体的にいつ開校するのか。

#### <教育委員会 回答>

○北は一体型の義務教育学校として、早くて平成 33 年の開校を目指している。  
○その時点で南は（南小学校・南中学校において）分離型としてスタートし、施設整備が可能か調整を行い、場所を決定した上で、できる限り早く一体型の開校を目指す。

#### <2 人目>

○どちらの義務教育学校に通うか、選択できるような制度は考えられているか。

#### <教育委員会 回答>

○学校と地域コミュニティの関係や定員の問題もあることから、現時点では考えていない。

#### <3 人目>

○具体的にどこまで話が進んでいるのか。またこれからどのように進んでいくのか。

#### <教育委員会 回答>

○現時点では義務教育学校設立に向け、住民のみなさんにコンセンサスを図っている段階である。今後、基本方針を定めた上、基本計画策定等を進めていきたい。  
○小中一貫教育は全国で 10 数年前から実施されているので、それぞれの良い所や、現在の学校現場の意見を取り入れるため、今後プロジェクトチームを編成してカリキュラムの検討を行っていく。



<4 人目>

- 北の義務教育学校は、現在の王寺中学校の校舎の増築なのか、建て替えなのか。
- 小学生と中学生が混在するので、運動場の使い方はどうなるのか。

<教育委員会 回答>

- 現在の王寺中学校運動場に新たな校舎を建築し、運動場南側の山林を用地買収の上、体育館を建築する予定である。
- 小学生と中学生では体格差があるため、運動場使用時に事故等が無いよう、メインとなる運動場の他にサブグラウンドも設置したい。

<5 人目>

- 畠田に住んでいるが、義務教育学校が開校すれば、小学生は何処に通うことになるのか。

<教育委員会 回答>

- 畠田地区は南の義務教育学校区となるので、開校当初は南小学校への通学となる。

<6 人目>

- 小中両免許を持っている教員の数が知りたい。
- 5校の小中学校から2校の義務教育学校に変わった場合、教員の数はどのように変化するのか。

<教育委員会 回答>

- 現在、5校の教員の数は110人。
- 義務教育学校に変わっても、1学級当たりの児童生徒の定員は変わらないため、学校における教員数は変わらない。
- 小学校教員が中学校免許を併有している割合は60%。中学校教員が小学校免許を併有している割合は10%。全体的には41%で45人の教員が併有している。

<7 人目>

- 4-3-2制となった場合、南校区では5・6年生はどこで学習することになるのか。
- 小学生と中学生では授業の時間、休み時間、給食の時間等がそれぞれ違うが、チャイムはどうするのか。

<教育委員会 回答>

- 南校区の場合、児童生徒の人数から考えれば、小学1年生から5年生までは南小学校。小学6年生から中学3年生までは南中学校（5-4制）が当てはまるが、これについては、今後検討を重ねていきたい。
- チャイムの件については、学年をフロアごとに分ける等、校舎配置や動線を含め、先進地の例を基に検討していく。

<8人目>

- 制服はどうなるのか。

<教育委員会 回答>

- 魅力や憧れに繋がる制服は必要であるため、保護者の意見も取り入れながら、今後検討していく。

<9人目>

- 南校区が分離型でスタートするとのことであるが、分離型としてのメリットはあるか。

<教育委員会 回答>

- 分離型でのスタートではあるが、南校区は既に小中連携の取組みをしているため、9年間一体でスムーズなカリキュラムが編成できる。

<10人目>

- 南校区で最も遠い通学距離は何kmか。

<教育委員会 回答>

- 現在、王寺小学校から藤井地区に通学している児童が最も遠く約2.5kmである。
- 南校区の場合も同じ位である。

<11人目>

- 義務教育学校のメリットの説明が主だったが、デメリットの検証はされるのか。

<教育委員会 回答>

- デメリットとして、例えば9年間同じ学年となりメンバーの固定化が挙げられる。

よって児童生徒の縦横の繋がりや多くの教師の繋がりも含め、交流行事を積極的に取り入れていきたい。